

平成 24 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	構成論的発達科学－胎児からの発達原理の解明に基づく発達障害のシステムの理解－
領域代表者	國吉 康夫（東京大学・情報理工学（系）研究科・教授）
研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、各種計測データに基づき胎児期から幼児期までの認知発達モデルを作成し、検証することで、心の発達の基本原理とその障害を環境と他者相互作用を前提として統一的に理解し、発達障害の包括的診断法と支援技術開発の基盤を形成することを目的とするものである。ロボティクスを基軸に脳関連科学と当事者研究の融合による構成論的方法により、実践科学としての有効性を検証し、融合学問領域を形成することは重要かつ妥当である。計画研究は情報、ロボティクス、心理学、神経科学、小児科・精神科臨床医学、人間支援工学、当事者研究など多様な研究者グループでバランス良く構成されており、それぞれが各分野での実績もあげているため、構成論的発達科学に関して十分な成果が期待される。</p>